

学則の変更の趣旨等を記載した書類

I. 学則変更（収容定員変更）の内容

立命館大学は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、「平和と民主主義」を教学理念に定め、2006（平成18）年には学校法人立命館全体の理念として「立命館憲章」を制定した。同憲章では、「人類の未来を切り拓くために学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類的諸課題の解明に邁進する」こと、「その教育にあたっては建学の精神と教学理念に基づき」、「確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人材の育成に努める」ことをうたっている。

このたび、本学では、現在の社会からの要請に応えるとともに、高等教育機関に求められている責務を果たすため、2015（平成27）年4月より薬学部新たに創薬科学科を新設する。創薬科学科の教育研究上の目的は、創薬の高度な専門知識と研究力を有し、医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を養成することである。本学は、同学科の設置により、入学定員を60名、収容定員を240名増加することとする。

収容定員変更の内容および内訳は以下の通りである。

学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
法学部	法学科	790		3,160
経済学部	経済学科	535		2,140
	国際経済学科	200		800
	計	735		2,940
経営学部	経営学科	610		2,440
	国際経営学科	150		600
	計	760		3,040
産業社会学部	現代社会学科 現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 人間福祉専攻	840		3,360
	子ども社会専攻	60		240
	計	900		3,600
文学部	人文学科	1,105		4,420
理工学部	電気電子工学科	142	12	592
	機械工学科	160	10	660
	都市システム工学科	84	2	340
	環境システム工学科	69	2	280
	ロボティクス学科	83	6	344

	数理科学科	90		360
	物理科学科	80		320
	電子情報工学科	94	8	392
	建築都市デザイン学科	70	16	312
	計	872	56	3,600
国際関係学部	国際関係学科	305	0	1,220
政策科学部	政策科学科	360		1,440
情報理工学部	情報システム学科	110		440
	情報コミュニケーション学科	110		440
	メディア情報学科	110		440
	知能情報学科	110		440
	計	440		1,760
映像学部	映像学科	150		600
薬学部	薬学科	100		600
	創薬科学科	60		240
	計	160		840
生命科学部	応用化学科	80		320
	生物工学科	80		320
	生命情報学科	60		240
	生命医科学科	60		240
	計	280		1,120
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	220		880
合計		<u>7,077</u>	56	<u>28,620</u>

Ⅱ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

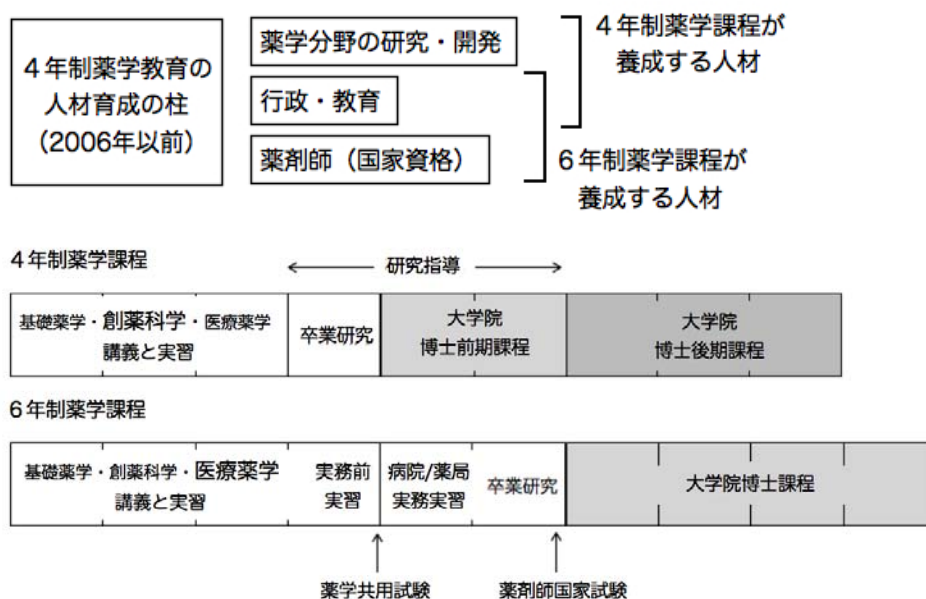
立命館大学では、教育研究や科学技術の動向を踏まえるなかで教育研究組織の設置や教学改革を行い、豊かな人間性や国際性を備えた多様な人材の養成に努めてきた。こうした教育研究活動の展開に関する評価は、大学全体や各学部に対する志願者数の状況に表れている（資料1. 立命館大学 学部別入試状況（2013年5月1日現在））。

高等教育機関の社会的な使命に立脚して、教育研究水準の維持・向上や教育研究環境の整備を図りつつ本学への進学を希望する多様な学生を受け入れ、社会に有為な学生を輩出することは、高等教育機関としての基本的な責務である。このような責務や要請に積極的に応えていくことが必要であると考え、このたび既設学部の定員を維持しつつ、薬学部
に創薬科学科を設置し、大学全体の収容定員を増加するかたちでの定員変更を申請するに

至った。

「薬学部創薬科学科」を新設する趣旨および必要性は次のとおりである。

薬学は生命現象と人の健康を化合物や生体物質に着目して総合的に科学する学問であり、医薬品の創製とその適正使用の実践などを通して人類の健康と幸福に貢献し、社会の発展に寄与していくことをその使命としている。明治以来の日本の薬学教育は、「医療現場で活躍する薬剤師」と「薬を生み出す創薬研究者」というふたつの人材育成目標を掲げながらひとつの教育システムとして発展してきた。しかしながら 21 世紀を迎えて、臨床における診断技術や治療法・予防法が日々高度化してきている中、より高度な薬剤師の育成が求められるようになった。こうしたニーズを受けて、2006(平成 18)年 4 月に学校教育法、薬剤師法が改正され、薬の専門家である薬剤師を養成する薬学教育の 6 年制学士課程と、薬学基礎系として従来型の 4 年制学士課程の 2 つの薬学教育課程がスタートした。4 年制課程と 6 年制課程では人材育成目標が大きく異なり、4 年制課程では医薬品の創製、開発、生産、さらには食品・化粧品、環境や衛生分野などの薬学関連領域での研究及び教育に従事する人材を養成し、6 年制課程では、薬物の適正使用に求められる知識・技能の習得とその進歩を担う薬剤師、さらに医療薬学分野の研究者を養成する。また、この改定を受けて 6 年制課程では、単なる修業年限の延長ではなくカリキュラムに様々な追加・変更がなされ、特に医療人としての実践的能力を育成するために 5 回生時に病院と薬局においてそれぞれ 11 週間の参加型実務実習が必修化された。さらにこの長期実務実習に参加する学生の水準を一定以上に保つための施策として「薬学教育モデル・コアカリキュラム」と「薬学共用試験」、「薬学教育評価機構による専門分野別評価」が導入されている。



医療人としての薬剤師の質的向上とその地位の向上を目指した 6 年制薬学教育課程が着実に成果をあげている一方で、新たな問題も生じている。2006(平成 18)年の新課程のスタ

一トにあたって全国の私立薬学部・薬科大学が一斉に 6 年制課程に舵をきったことから 4 年制と 6 年制の学生定員に大きな偏りが生まれ、明治以来日本の薬学教育システムが担ってきた「創薬人材の育成」というもうひとつの重要な役割を果たすことが困難になってきたということである。医療の発展と国民の健康増進に貢献できる多様な人材を多分野に輩出するという薬学部本来の目的を達成するためには、「医療薬学」と「創薬科学」という日本独自の薬学教育システムをバランスよく機能させていかなければならない。さらに、分子標的薬やゲノム創薬に代表される医薬品創製技術・手法の高度化にともない、それに対応できるハイレベルな創薬研究者の育成が求められている現在、創薬科学の重要性は益々増大している。

以上のような社会的ニーズを勘案し、立命館大学薬学部には備わる研究に対する高いポテンシャルを活用して薬学を通じた社会へのさらなる貢献と、医学・薬学分野における研究力を備えた人材育成の一層の強化を目指すために、立命館大学薬学部は 2015(平成 27)年度より「薬学科(6年制)」と「創薬科学科(4年制)」の二学科体制として新たに展開する。

本学薬学部薬学科および創薬科学科の人材育成目的

薬学部は、医薬品等を通じて人の生命や健康にかかわるという使命感や倫理観を持ち、人類の健康と幸福に貢献し、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の具体的育成目的は下記の通りです。

薬学科

医薬品についての高度な専門知識、実務能力、医療人としての素養を有し、地域薬局や病院内で医療チームの一員として先導的な役割を果たす薬剤師、および研究マインドを持ち薬剤師として医療薬学分野の発展に貢献できる人材を養成することを目的としています。

創薬科学科

創薬の高度な専門知識と研究力を有し、医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を養成することを目的としています。

医薬品メーカーは元々大阪発祥の企業が多く、武田薬品、田辺三菱製薬、大日本住友製薬、塩野義製薬などの国内大手企業、アストラゼネカ、バイエルなどといった外資系企業の多くが本社を大阪にしている。また本社の立地と物流の関係から、大阪やその周辺の近畿圏に研究所や工場をもつ企業が多く、他業種に比べ関西を拠点として事業展開している企業の割合が多いことが特徴として挙げられる(資料 2. 医療用医薬品メーカー売り上げ TOP20 の本社・研究・生産機能)。ところが、薬学部を有する 57 私大中 4 年制を併設する 14 大学をみると、4 年制学科については東日本の 495 名の入学定員に対し西日本はわずか 130 名に過ぎず、東西で大きな偏りが生まれている(資料 3. 2013(平成 25)年度 薬系大学入学定員一覧)。したがって、京都、滋賀、大阪にキャンパスを有する本学が創薬科学科を設置し、製薬業界等で活躍できる人材を多く輩出することは、地域的、社会的にも大きく貢献できると考える。

Ⅲ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

このたびの学則変更と併せて行う本学薬学部の新学科設置は、「医療薬学」と「創薬科学」の2つの薬学教育システムをバランスよく機能させ、医療の発展と国民の健康増進に貢献できる多様な人材を多分野に輩出することを目的としている。2015(平成27)年度より「創薬科学科（仮称）」を設置し、「薬学科（6年制）」との二学科体制として新たに展開することで、総合大学としての強みを生かし、医療系人材のみならず、創薬系の人材育成においても貢献していきたいと考える。薬学部以外の既設学部においては教育課程等に変更はない。

1. 教育課程

6年制の薬学科と4年制の創薬科学科には、それぞれの教育目標や人材育成目的が独自に設定されているが、一方で両学科とも「薬」と「健康」に関する学問を深めていくことは共通している。したがって、両学科ともに低回生時においては基礎薬学、衛生薬学、薬理学・薬物治療学、薬剤学・製剤学、医療薬学といった「薬学」の基盤となる科目を習得し、2,3回生以降で各学科のそれぞれの専門的な科目を学ぶ。

創薬科学科では、幅広い自然科学の知識と医薬品の創製や開発に必要な技能を有する薬学研究者の輩出を目指し、3回生後期より開始される卒業研究において、研究者としての基盤となる知識・技能を習得する。また、創薬科学科は、その人材育成目的から高い大学院進学率を想定しており、学部での卒業研究1.5年に修士課程2年を加えた3.5年間を見据え、より高度な問題解決能力、研究や開発能力の醸成を目指す教学システムとする。「薬を中心に据えた」人の健康にかかわる自然科学を基盤とし、医薬品の創製と分析、環境因子と人体への影響、疾病と薬物治療など多方面にわたる「学際的な薬学」の専門知識と技術を習得させるとともに、大学院修士課程と連携した研究指導により、最先端の医薬品創製と医療を支える薬学研究者の養成を行う。

なお、薬学科においては、6年制薬学教育の核となる「薬学教育モデル・コアカリキュラム（以下「コアカリ」という）」が改訂されて2015(平成27)年度新入生から適用されるため、新コアカリに合わせて創薬・研究分野の人材育成を目指す創薬科学科とは明確に区別してカリキュラム改訂を行ない、より一層、高度医療人としての薬剤師の養成を進めていく。

(1) カリキュラムポリシー

本学薬学部のカリキュラムポリシーは以下の通りとする。

薬学部は、医薬品等を通じて人類の健康と幸福に貢献できる人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成します。

薬学科

1. 豊かな教養や人間性を涵養する科目を配置する。
2. 医療人である薬剤師として相応しい態度や倫理観を涵養する科目を配置する。
3. 基礎薬学から実践的な医療薬学まで、薬剤師として必要な知識、技能を養成する科目を系統的に配置する。
4. 医療人である薬剤師に必須なコミュニケーション能力を養成する科目を配置する。
5. 医療や科学の高度化に対応できる幅広い知識、論理的な思考、研究マインドに基づく問題発見・解決能力を涵養する科目を配置する。
6. 地域医療の基盤となる保健・医療・福祉等についての知識を習得する科目を配置する。
7. 英語での情報収集・発信能力を涵養する科目を系統的に配置する。

創薬科学科

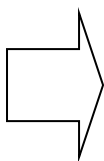
1. 豊かな教養や人間性を涵養する科目を配置する。
2. 薬学を基盤とし最先端の創薬研究に必要な知識、技能を養成する科目を系統的に配置する。
3. 薬学や医学の発展・高度化に対応できる幅広い知識、論理的な思考力を養成する科目を配置する。
4. 企業や大学において基礎研究および臨床開発に必要な問題発見・解決能力を醸成する科目を配置する。
5. 英語での情報収集・発信能力を涵養する科目を系統的に配置する。

(2) 科目区分

現在の薬学科カリキュラムでは、教養科目・外国語科目以外の科目を「専門基礎科目」、「共通専門科目」、「専門科目」という3つの区分に分類していたが、2015年度より、これらの科目区分を改めて、「基礎科目」と「専門科目」との2つの区分とし、専門科目の系統が分かりやすい配置とする。またインターンシッププログラムなど「自由選択科目」として開講していた科目を「教養科目」に組み入れ、「自由選択科目」という科目区分を廃止する。

<2014年度までの科目区分>

旧 科目区分	
基礎	外国語
	教養
専門基礎	
共通専門	
専門	
自由選択科目	
自由科目	



<2015年度以降の科目区分>

新 科目区分
外国語
教養
基礎
専門
—
自由科目

(3) 科目配置の考え方

薬学は、「薬」を中心に据えた学際的な学問領域であるため、人の健康にかかわる幅広い自然科学や医療薬学に習熟する必要がある。したがって、履修が特定の分野に偏らないように科目配置を考える必要があり、6年制薬学科、4年制創薬科学科ともに、必修科目を各科目区分に多く配置する。

薬学科および創薬科学科の両学科に共通して、①医療人に必須のヒューマニズム・倫理教育の充実、②コミュニケーション能力養成のための実践的な授業の配置を行う。また、③学生が受け入れやすい講義・実習の履修の体系化を進める。低年次では、広く教養科目、外国語科目、基礎（数学、物理等）科目を修得できるように科目を配置し、専門科目は、導入科目から始め、学年進行に伴って系統的に専門性を高めていけるような科目配置とする。2-4 回生では薬学科、創薬科学科それぞれが専門的な必修科目、選択科目を配置し、人材育成目標と進路に基づいた系統的な履修を行う。

薬学科においては、6年制課程においてコアカリが占める割合を7割程度とし、残り3割程度は、大学固有の特徴ある内容とすることが要請されているため、新コアカリの意図を十分反映させつつ、総合大学としての強みを生かした特徴的な科目（アドバンスト科目）を4回生後期より開講し、本学ならではのカリキュラムを実現する。また、アドバンスト科目については進路に応じた4つの履修モデルを学生に提示する。

創薬科学科においては、想定される進路として、製薬会社のみならず、食品や化粧品などの化学系メーカーの研究開発職などの多様なキャリアパスが考えられるため、3回生後期及び4回生前期には創薬科学科で単独開講する科目を重点的に配置し、興味や進路に応じた履修を可能にする。また、これら単独開講科目のうち9科目18単位は、選択必修科目として学生に受講を促すとともに、想定される進路に応じた履修が推奨されることから、3つの履修モデルを学生へ提示する。なお、この選択必修科目のうち8単位習得することを卒業の要件とする。

（4）卒業要件

＜薬学科＞

薬学科では、「研究マインドをもった薬剤師の養成」を目指したこれまでのカリキュラムを基盤としながら、本学薬学部の特徴を打ち出すべく、キャリアパスを意識した4回生および6回生向けのアドバンスト科目の配置などを行った。開講科目数は131科目から123科目に減らしつつ、コアカリキュラム対応に必要な必修科目を増やし、2015年度よりスタートする新カリキュラムでは、卒業要件の総単位数を196単位から206単位へと見直した。

【2014年度まで】

科目区分		科目区分毎の要件	卒業要件
基礎	教養科目	16 単位以上を修得する。	合計 195 単位以上を修得する。
	外国語科目	8 単位を修得する。	
専門基礎		20 単位以上を修得する	
共通専門		化学系から 12 単位以上、生命・医科学系から 12 単位以上、専門英語 2 単位以上を含む 28 単位以上	

専門	薬学導入科目 4 単位、化学系薬学から 16 単位以上、生物系薬学から 22 単位以上、医療系薬学から 20 単位以上、学部横断アドバンスト科目から 6 単位以上、演習/実習から 55 単位以上を含む 123 単位以上	
自由選択科目	8 単位を上限として教養科目に算入する。	
自由科目	要卒単位に含まない。	

【2015 年度以降】

科目区分	科目区分毎の要件	卒業要件
教養科目	16 単位以上を修得する。	合計 206 単位以上を修得する。
外国語科目	8 単位を修得する。	
基礎科目	必修科目 2 単位を含む 12 単位以上を修得する。	
専門科目	必修科目 156 単位・アドバンスト科目 6 単位・アドバンスト科目を除く選択科目 8 単位以上を含む 170 単位以上を修得する。	
自由科目	要卒単位に含まない。	—

<創薬科学科>

創薬科学科では、医薬品創製の高度な専門知識と研究力を有し、基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を養成することを目的としているが、上述の通り学生自らが描くキャリアパスに応じて柔軟な履修が可能となるように 3 回生以降の専門科目において科目選択に幅をもたせた。

科目区分	科目区分毎の要件	卒業要件
教養科目	16 単位以上を修得する。	合計 128 単位以上を修得する。
外国語科目	8 単位を修得する。	
基礎科目	9 単位以上を修得する。	
専門科目	必修科目 71 単位と選択必修科目 8 単位以上を含む 95 単位以上を修得する。	
自由科目	要卒単位に含まない	—

2. 教育方法、履修指導方法

(1) 教育方法

上述の通り、薬学科と創薬科学科は教育目標、人材育成目的が異なるが、両学科ともに「薬」と「健康」に関する学問を深めていくことは共通している。したがって、1-2回生では両学科に共通する科目を配置し、物理、化学、生物を基盤とする基礎薬学を主に学ぶ。2-4回生では薬学科、創薬科学科それぞれが専門的な必修科目、選択科目を配置し、人材育成目標と進路に基づいた系統的な履修を行う。薬学において求められる幅広い専門知識と技能を涵養するための実習科目は、医療系薬学実習を除いて6年制薬学科と共同で開講し、1回生から3回生までに系統的に履修する。両学科ともに3回生後期には研究室

に所属し卒業研究に従事する。

なお、これまで薬学部薬学科では系統履修を効果的に行い、知識と技能の習得に一定の質を保証するシステムとして進級制度を導入し、運用してきた。2015年度のカリキュラム改訂に伴い、従来の3回生進級時、5回生進級時の2回に加え、4回生進級時にも進級要件を設けることとする。これにより、回生ごとの到達度検証の厳格化を目指す。

創薬科学科についても、各年次において一定の学力を付けて卒業まで導く系統的履修の考え方を踏襲した教育を行うため、2回生から3回生と3回生から4回生へ進級する際に一定の基準を課す「進級制度」を導入する。

(2) 履修指導方法

薬学部では入学直後のオリエンテーション時において、理念および学びの特色、研究室配属方針や進路等について、具体的説明を行う。また、創薬科学科においても6年制薬学科同様に、入学時より各回生の学生を専任教員に振り分けるアドバイザー制度を設け、直接数人規模の小集団で指導を行う体制を整備する。アドバイザーは履修指導から成績を含めた学生生活、進路・就職に関する相談までのきめ細かな支援にあたる。具体的には、アドバイザーは各学生と半年ごとの成績発表時に面談を行って知識・技能の習得状況について把握するとともに、個々の学生にあった履修指導を行っていく。薬学領域の進路は多岐にわたるため、進路を決定するためには様々な情報を適切な時期に提供することが重要となることから、進路将来を見据えて履修計画をたてる様にアドバイザー教員が個々の学生の希望を聞きつつ、細やかな指導にあたる。また、アドバイザーは各卒業研究室に配属した高回生との学年を越えた学生の交流と情報交換をする環境を提供し、低回生時から高度な知識や研究、卒業後の進路に関する関心を高める手助けをする。

なお、「1. 教育課程 (3) 科目配置の考え方」で述べたとおり、薬学科では、A. 病院内の医療チームで活躍することを目指す、B. 病院内の臨床研究・治験の分野で活躍することを目指す場合、C. 地域薬局において地域医療の担い手となることを目指す場合、D. 企業や行政等の医療薬学分野で活躍することを目指す場合の4つの履修モデル、創薬科学科では、A. 創薬研究者（化学系）、B. 創薬研究者（生物系）、C. 臨床開発・医薬情報担当者の3つの履修モデルを提示し、学生自身の希望するキャリアプランに合わせて科目選択の助言を行っていく。

3. 教育組織の変更

4年制創薬科学科の設置に伴い、薬学部として教員10名を増員する。

各学科の専任教員はそれぞれの教学内容にあわせ、創薬科学科では制薬学科より教育内容の比重が大きいと考えられる化学系薬学分野および生物系薬学分野の教員を主として配置し、薬学科では、以上の分野に医療系薬学分野を加えた体制とする。

基本的に、薬学部としては2学科となるが、両学科に共通する科目が多いため、6

年制薬学科所属教員と4年制創薬科学科所属教員が共に協力して両学科の教育を行うこととなる。したがって、教員組織および教育環境は現在と同等以上の内容を担保できると考える。

<資料1. 立命館大学 学部別入試状況 (2013年5月1日現在) >

〈立命館大学〉

■学部別 一般入試 募集定員・志願者数・受験者数・合格者数・競争率

(単位:名)

学部	年度	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	競争率
法学部	2013	790	6,687	6,546	2,845	2.3倍
	2012	790	6,414	6,274	2,727	2.3倍
	2011	790	6,189	6,059	2,420	2.5倍
経済学部	2013	735	7,427	7,233	3,281	2.2倍
	2012	735	8,483	8,313	3,657	2.3倍
	2011	735	7,869	7,732	3,420	2.3倍
経営学部	2013	760	6,646	6,501	2,185	3.0倍
	2012	760	7,650	7,495	2,035	3.7倍
	2011	760	5,558	5,445	1,758	3.1倍
産業社会学部	2013	900	9,419	9,218	2,377	3.9倍
	2012	900	9,752	9,571	2,362	4.1倍
	2011	900	7,866	7,737	2,338	3.3倍
文学部	2013	1,105	10,571	10,364	3,212	3.2倍
	2012	1,105	11,145	10,914	3,155	3.5倍
	2011	1,102	9,573	9,405	2,944	3.2倍
理工学部	2013	872	17,412	16,937	5,965	2.8倍
	2012	872	16,928	16,498	6,457	2.6倍
	2011	892	15,649	15,292	6,678	2.3倍
国際関係学部	2013	305	2,300	2,250	697	3.2倍
	2012	302	3,220	3,146	658	4.8倍
	2011	302	3,140	3,064	744	4.1倍
政策科学部	2013	360	3,422	3,355	1,152	2.9倍
	2012	360	3,518	3,459	1,084	3.2倍
	2011	360	3,442	3,359	1,088	3.1倍
情報理工学部	2013	440	5,200	5,051	1,765	2.9倍
	2012	440	5,061	4,925	1,734	2.8倍
	2011	440	3,990	3,890	1,708	2.3倍
映像学部	2013	150	1,174	1,153	305	3.8倍
	2012	150	1,458	1,434	301	4.8倍
	2011	150	1,229	1,195	304	3.9倍
薬学部	2013	100	2,394	2,304	545	4.2倍
	2012	100	2,204	2,124	613	3.5倍
	2011	100	2,080	2,012	652	3.1倍
生命科学部	2013	280	7,544	7,378	2,150	3.4倍
	2012	280	7,266	7,091	2,403	3.0倍
	2011	280	6,669	6,505	2,374	2.7倍
スポーツ健康科学部	2013	220	2,441	2,384	548	4.4倍
	2012	220	2,039	2,006	488	4.1倍
	2011	220	2,429	2,383	429	5.6倍
合計	2013	7,017	82,637	80,674	27,047	3.0倍
	2012	7,014	85,138	83,250	27,674	3.0倍
	2011	7,031	75,683	74,088	26,857	2.8倍

※各年度の4月入学者を対象として集計。

※国際関係学部の募集定員は、9月入学の数を含む。

※2013年度の政策科学部の募集定員は、9月入学の数を含む。

<資料2. 医療用医薬品メーカー売上げTOP20の本社・研究・生産機能(IMS 医薬品市場統計・2012(平成24)年売上高)>

1	武田薬品工業	本社 (大阪)・研究所・工場 (大阪)
2	アステラス製薬	本社 (東京)・研究所 (茨城・静岡) 工場 ((小会社) 茨城・静岡他)
3	第一三共	本社 (東京)・工場 (大阪/神奈川他 (第一三共プロファーマ))
4	田辺三菱製薬	本社 (大阪)・研究所 (大阪)・工場 (大阪)
5	中外製薬	本社 (東京)・工場 (栃木・東京・静岡)
6	MSD	本社 (東京)・工場 (埼玉)
7	ノバルティスファーマ	本社 (東京) 工場 (兵庫)
8	エーザイ	本社 (東京)・研究所 (茨城)・工場 (埼玉)
9	ファイザー	本社 (東京)・工場 (愛知・神奈川)
10	グラクソ・スミスクライン	本社 (東京)・工場 (栃木)
11	大塚製薬	本社 (東京)・研究所 (徳島、滋賀、兵庫)・工場 (徳島、他)
12	サノフィ	本社 (東京) 工場 (埼玉)
13	協和発酵キリン	本社 (東京)・研究所 (大阪、他) 工場 (大阪、三重、他)
14	アストラゼネカ	本社 (大阪) 工場 (滋賀)
15	大日本住友製薬	本社 (大阪)・研究所 (大阪)・工場 (大阪、三重、他)
16	塩野義製薬	本社 (大阪)・研究所 (大阪、北海道)・工場 (大阪、岩手)
17	バイエル薬品	本社 (大阪)・工場 (滋賀)
18	日本イーライリリー	本社 (兵庫)
19	小野薬品	本社 (大阪)・研究所 (大阪、福井他)・工場 (大阪、静岡)
20	アボットジャパン	本社 (東京)・工場 (千葉・福井)

<資料3. 2013(平成25)年度 薬系大学入学定員一覧>

	大学名		6年制学科	4年制学科
			入学定員	入学定員
1	北海道大学	国立	30	50
2	東北大学	国立	20	60
3	千葉大学	国立	40	40
4	東京大学	国立	8	72
5	富山大学	国立	55	50
6	金沢大学	国立	35	40
7	静岡県立大学	公立	80	40
8	名古屋市立大学	公立	60	40
9	岐阜薬科大学	公立	80	40
10	京都大学	国立	30	50
11	大阪大学	国立	25	55
12	岡山大学	国立	40	40
13	広島大学	国立	38	22
14	徳島大学	国立	40	40
15	九州大学	国立	30	49
16	長崎大学	国立	40	40
17	熊本大学	国立	55	35
18	北海道医療大学	私立	160	
19	北海道薬科大学	私立	210	
20	青森大学	私立	90	
21	岩手医科大学	私立	160	
22	東北薬科大学	私立	300	40
23	奥羽大学	私立	140	
24	いわき明星大学	私立	90	
25	国際医療福祉大学	私立	180	
26	高崎健康福祉大学	私立	90	
27	城西大学	私立	250	50
28	日本薬科大学	私立	260	90
29	東邦大学	私立	220	
30	日本大学	私立	240	
31	東京理科大学	私立	100	100
32	千葉科学大学	私立	120	40
33	城西国際大学	私立	130	
34	帝京平成大学	私立	240	
35	北里大学	私立	250	35
36	慶応義塾大学	私立	150	60
37	昭和大学	私立	200	
38	星薬科大学	私立	260	20
39	東京薬科大学	私立	420	
40	明治薬科大学	私立	300	60
41	武蔵野大学	私立	145	
42	昭和薬科大学	私立	240	
43	帝京大学	私立	320	

44	横浜薬科大学	私立	360	
45	新潟薬科大学	私立	180	
46	北陸大学	私立	306	
47	名城大学	私立	250	
48	金城学院大学	私立	150	
49	愛知学院大学	私立	145	
50	鈴鹿医療科学大学	私立	100	
51	立命館大学	私立	100	
52	京都薬科大学	私立	360	
53	同志社女子大学	私立	120	
54	大阪薬科大学	私立	270	30 (6年制と一括募集)
55	近畿大学	私立	150	30
56	摂南大学	私立	220	
57	大阪大谷大学	私立	140	
58	神戸学院大学	私立	250	
59	神戸薬科大学	私立	270	
60	兵庫医療大学	私立	150	
61	武庫川女子大学	私立	210	40
62	姫路独協大学	私立	100	
63	就実大学	私立	120	
64	安田女子大学	私立	120	
65	福山大学	私立	150	
66	広島国際大学	私立	160	
67	徳島文理大学	私立	180	
68	徳島文理大学香川	私立	90	
69	松山大学	私立	100	
70	第一薬科大学	私立	173	
71	福岡大学	私立	230	
72	長崎国際大学	私立	120	
73	崇城大学	私立	120	
74	九州保険福祉大学	私立	140	30

I. 1. 書類等の題名

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」 12 ページ

【資料2】医療用医薬品メーカー売上げTOP20 の本社・研究・生産機能(IMS 医薬品市場統計・2012(平成24)年売上高)

2. 引用元

https://www.ims-japan.co.jp/japanese/topline/dl/top_line_12YEj_.pdf

3. 説明

上記引用元中、「3) 製薬企業上位 20 社」のランキング表に、本学において本社位置等を調査のうえ加筆した。

II. 1. 書類等の題名

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」 13 ページから 14 ページ

【資料3】2013(平成25)年度 薬系大学入学定員一覧

2. 引用元

「日本私立薬科大学協会だより」第 81 号

3. 説明

上記引用元 74 ページ、「平成 25 年度私立薬科大学(薬学部)入学定員と入学者数」を参考にして作成した。